

# ■ 関西学生ハンドボール連盟 ■

Spring Match in Kansai

学生審判員研修資料 2021/04

- **今大会の学生審判員の皆さんは必ず本資料を確認し、研修を行った上で、吹笛してください**
- 審判員としての心構え
- 準備物
- 試合前
- 試合直前～入場
- 試合中
  - 役割分担／ジェスチャー／8の4解説
- 試合後



# ■ 審判員としての心構え

## 審判員の心得10箇条

レフェリーは、素晴らしいハンドボールを創造する陰の演出者でなければならない。

Japan Handball Association / Playlaw Rules and Referees Commission

### ① リーダーシップ Leadership



レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。

「無駄な中断をさせない」→モダンハンドボール

「ボディランゲージ」を用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を。

そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかという**ハンドボール感**あるいは**ハンドボール理念**を持たなければならない。



# ■ 審判員としての心構え

## ② 誠実さ Honesty

レフェリーは誠実でなければならない。

勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、ひとつひとつを丁寧に、特に初心者のプレイほど丁寧に吹笛する必要がある。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## ③ ルールに関する知識 Knowledge of the Rule

ルールを熟知していること、さらに**その根底にある意図・思想**を理解する。

反則された者が不利に、反則した者が有利になってはならない。





# ■ 審判員としての心構え

## ④ 冷静さ Firmness

感情的になるな！！

レフェリーは瞬間、瞬間に適切な判断をしなければならない。

そのためには、自分の信念で堂々と判定しなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

## ⑤ 正しい判断 Good judgment

よく観察し、はっきり確認したものだけを、判定する。

決して予測で吹笛してはならない。

アドバンテージルールがあるので、見えた全てを判定するのではなく、プレイが発展するかどうかを見極めなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission



# ■ 審判員としての心構え

## ⑥ 身体上の適正 Good fitness

素晴らしい笛(タイミング、判定基準)は、  
良い位置に素早く移動して、  
適切に判定することから生まれる。  
「We must run, too」とIHFレフェリーも言っている。



*Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission*

## ⑦ ユーモアのセンス Sense of humor

ユーモアはなくて困るものではないが、  
もしも、選手を罰するとき微笑を持ったなら、  
あなたの温かい心が  
相手に伝わるはずである。



*Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission*



# ■ 審判員としての心構え

## ⑧ 勇気 Courage

監督・選手が恩師や先輩であっても、  
ルールはルール。  
たとえ罰則であっても  
勇気を持って公平に  
判定しなければならない。



*Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission*

## ⑨ 協調性 Cooperation



競技場には二人のレフェリーペアがいることを、  
常に意識しなければならない。  
また二人しかいないことも忘れてはならない。  
そのため、二人で力を合わせ、協調しながら  
ゲームを運営しなければならない。  
チーム・競技役員・補助役員との連携を！

*Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission*



# ■ 審判員としての心構え

## ⑩ 仲間意識 Fellowship

協調性とほぼ同じであるが、  
お互いを褒め称えることも忘れずに。



*Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission*

一戦一戦・一瞬一瞬  
を  
真剣に対処すべし

*Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission*



# ■ 準備物

- ホイッスル（音がなるか事前に確認する・ペアと同種類のものを使用する）
- コイン（硬貨でもOK）
- レフェリーウェア
- カード3枚（イエローカード・レッドカード・ブルーカード）
- 公認審判員手帳
- **ワッペン（登録手続き上、Spring Match in Kansai開催時には、手元に届いていない状況になります。学連としても会場に予備を用意しますが、足りない場合も予想されますので、大学先輩のものを借りるなど、各自ご調整頂けますと幸いです。）**



# ■ 試合前

- 今大会においては、**全試合開始30分前**にオフィシャル席にてユニフォームチェックおよびコイントスを行う

⇒ユニフォームが必ずコート上に4色ある状態にする。判別し難いものは着用させない

⇒コイントスに勝ったチームが「スローオフ」か「サイド（コート）」を選ぶ



# ■ 試合直前～入場

- ゴール、コートやボールの点検を行う
- 選手をベンチ前に整列させ、メンバー表とその場にいる選手が相違無いか確認する
- 選手入場・あいさつの後、両チームの役員やオフィシャルに挨拶する



# ■ 試合中

## ・公正に試合が進行するよう、丁寧に吹笛する

⇒会場にお越しの方々は、学生審判員の皆さんの吹笛に非常に注目しています！

⇒特に笛ははっきり強く、ジェスチャーは誰にでもわかりやすいよう大きく見せましょう

(観客・選手・オフィシャル・スコアラー、会場にいる全員に伝わるように！)



# ■ 試合中

## • 得点の管理、時間の管理

⇒ 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する

## • 走法と位置取り

⇒ C Rは判定の後にポイントに素早く移動する

⇒ G Rへの移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない

⇒ 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ

## • 判定の手順、ジェスチャー

⇒ 判定の手順を守る

⇒ ①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー

⇒ 競技規則に記載されているジェスチャーを用いる



# ■ 試合中

## • 立ち居振る舞い

⇒ 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する

⇒ 長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま、プレーを観察することがないように

## • 役割分担

⇒ コートレフェリーは、7m スローを判定しない

⇒ コートレフェリーは、ゴールエリアへの侵入（ラインクロス）を判定しない

## • 競技規則の正しい運用

⇒ 退場を判定するときは、必ずタイムアウトを取る

⇒ 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する



# ■ 試合中（役割分担）

- コートレフェリーは、ボールに近いところの反則とスロー（スローオフ、フリースロー、7mスロー）を担当しなければならない。また、タイムアウトの合図、および通常、オフィシャルテーブルとのコンタクトを密にとる。



- また、ゴールレフェリーの担当するエリアは、上図に示された薄水色の部分とゴールエリア際の部分が主となる。



# ■ 試合中（役割分担）

## コートレフェリーの役割



### 基本の位置取り

- ・バックコートプレーヤーの後方に位置する
- ・ゴールレフェリーとは対角線上
- ・防御隊形によって変化する。コートのがらりと奥行きに応じて位置を移動する

### 基本的な役割

- ・ボールに近いところの違反を観察する
- ・スローの実施(スローオフ・フリースロー・7mスロー)
- ・必要に応じて再開の笛を吹く
- ・プレーヤーとのコンタクト(特にピボットプレーヤーの視野内に入る)

## ゴールレフェリーの役割



### 基本の位置取り

- ・アウトゴールライン沿いのコート外に位置する
- ・ゴールポストからおよそ3m離れる
- ・状況に応じて位置取りを変える(コート中に位置することもある)

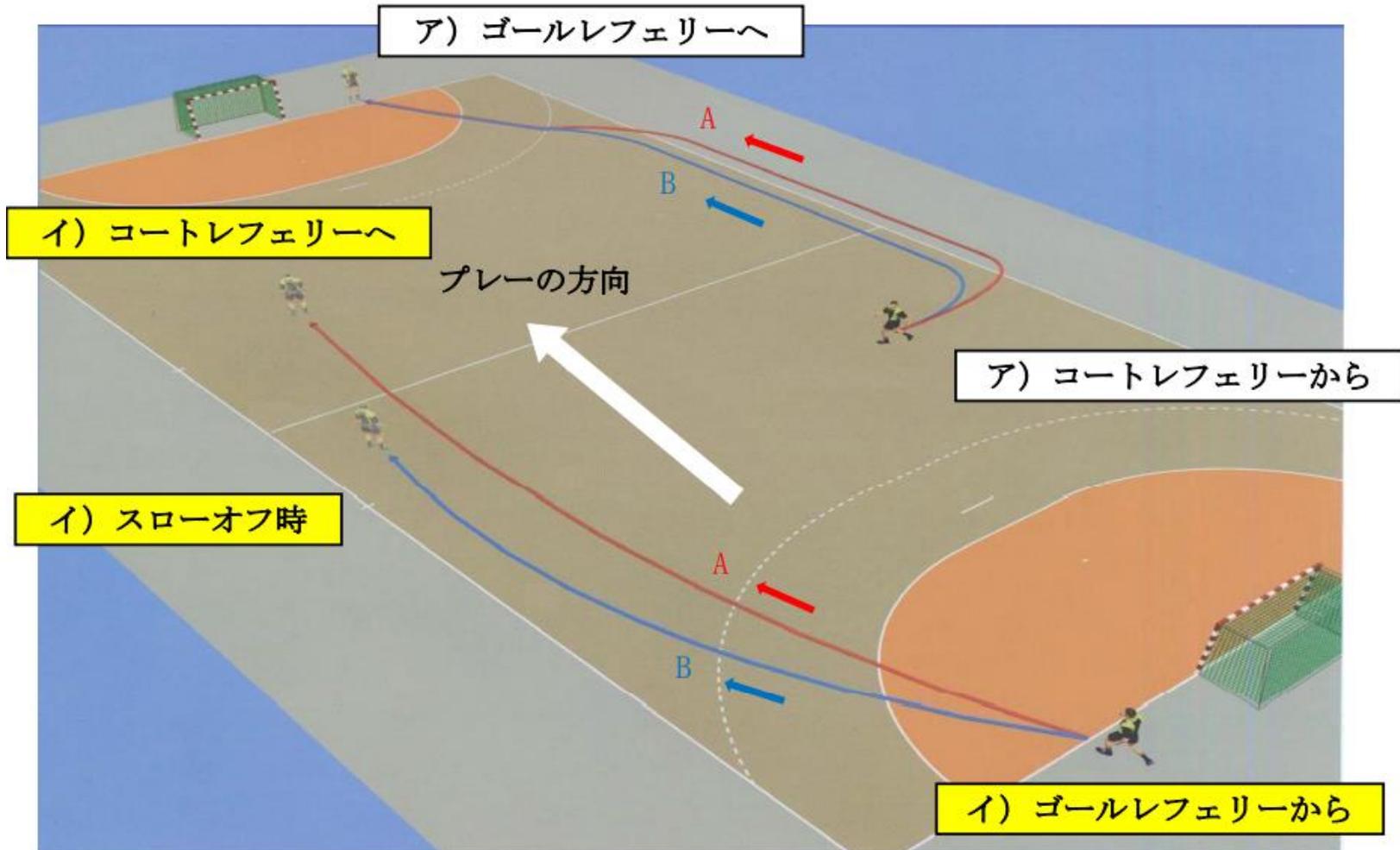
### 基本的な役割

- ・ゴールエリアへの侵入を観察する
- ・ボールの無いところの違反を観察する
- ・自サイドの責任領域の攻防を観察する
- ・得点を認める
- ・7mスローの判定 **エリア際の判定**
- ・自サイドのスローインを決定する



# ■ 試合中 (役割分担)

- 基本的な走路





# ■ 試合中（ジェスチャー）

## 1. ゴールエリアへの侵入

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、ゴールエリアに向かって片腕を前方に伸ばし、左右に大きく振る。



## 2. イリーガルドリブル（不正ドリブル）

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、前方に両腕を伸ばして上下に振る。





# ■ 試合中（ジェスチャー）

## 3. オーバーステップ、オーバータイム

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、身体の前で両腕を回転させる。



## 4. ホールディング、プッシング

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、身体の前で両肘を張って両拳を突き合わせる。





# ■ 試合中（ジェスチャー）

## 5. ハッキング

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、前方に伸ばした片腕の手首を他方の手でたたく。



## 6. オフェンシブファール（攻撃側の違反）

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、肘を曲げて頭上にあげた片腕の手のひらを他方の手の拳でたたく。





# ■ 試合中 (ジェスチャー)

## 7. スローイン (方向指示)

身体の前方に両腕を平行に伸ばし、スローを行う方向を指示する。



## 8. ゴールキーパーズロー

片腕を前方に伸ばし、手首を曲げて指先をゴールエリアに向ける。





# ■ 試合中 (ジェスチャー)

## 9. フリースロー (方向指示)

身体の前方に片腕をやや上方に伸ばし、スローを行う方向を指示する。



## 10. 3m の距離の確保

手のひらを前方に向けて出した両腕を伸縮させ、両手を前後に動かす。





# ■ 試合中（ジェスチャー）

## 1 1. パッシブプレー

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、前方に伸ばした片腕の手首（腕時計の位置）を他方の手のひらで押さえる。



## 1 2. 得点

片腕をまっすぐ上方に伸ばす。





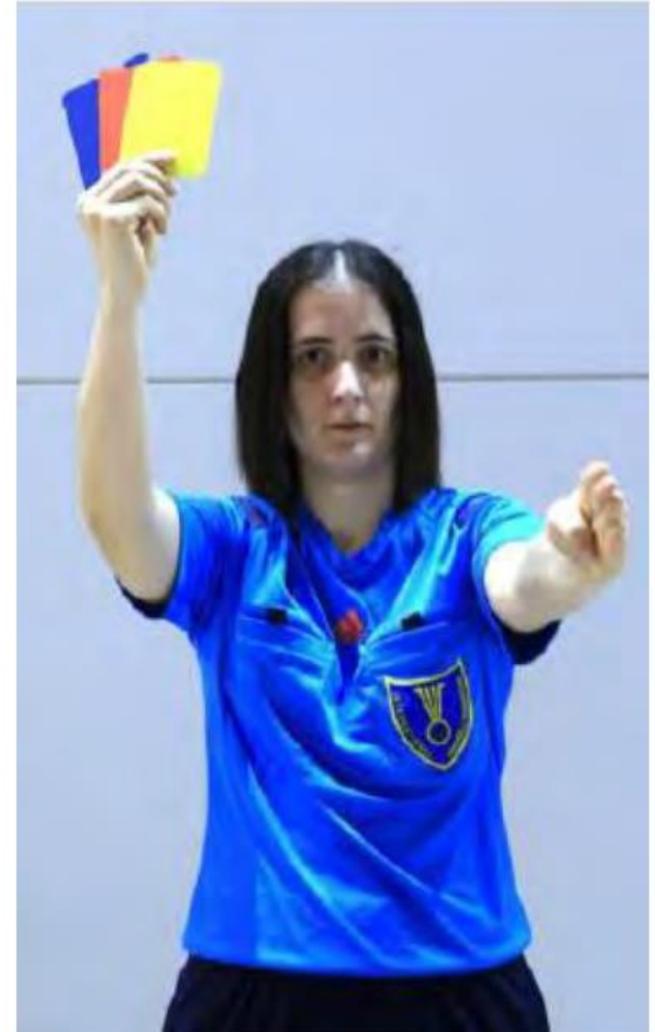
# ■ 試合中（ジェスチャー）

## 1 3 - 1. 警告（イエローカード）、 失格（レッドカード）

片手にカードを持ち、その腕をまっすぐ上方に伸ばす。他方の腕は前方に伸ばして、対象となるプレーヤーまたはチーム役員を指す。

## 1 3 - 2. 報告書を伴う失格 （レッドカード+ブルーカード）

「この失格は、報告書を伴うものである」とレフェリーが判断したならば、レッドカードに続いてブルーカードを示す。ただし、カードを示す前に、ペアで短時間の相談を行う必要がある。





# ■ 試合中（ジェスチャー）

## 14. 退場（2 分間）

2本の指（人差し指と中指）だけを伸ばした手をまっすぐ上方に高くあげる。他方の腕は前方に伸ばして、対象となるプレーヤーまたはチーム役員を指す。



## 15. タイムアウト

頭上で両手を使って「T」字形を作る。手が斜めになって「人」の字形にならないように注意する。





# ■ 試合中（ジェスチャー）

16. タイムアウト中における（「参加資格」のある）2名のコートへの入場許可

手の甲を前方に向けて出した両腕を伸縮させ、両手を前後に動かす。



17. パッシブプレーの予告合図

手のひらを正面に向け、前腕が垂直に、上腕が水平になるように肘を直角に曲げた片腕を横にあげる。この場合、チームベンチに近い方の腕をあげる。





# ■ 試合中（8の4解説）

## 即座に 2 分間退場を判定すべき違反行為

8 の 4 特定の違反をしたプレーヤーは前もって警告となっていなくても、即座に 2 分間退場を判定する。

これは特に、相手に対する危険性を軽視した違反行為に対して適用する（8：5， 8：6 を参照）。

競技規則 8：3 の判定基準をふまえ、このような違反の例として以下のようなことが挙げられる。

- (a) 衝撃の大きい違反行為や、高速で走っている相手に対する違反。
- (b) 相手を背後から捕まえ続けること、あるいは引き倒す。
- (c) 頭部や喉、首に対する違反。
- (d) 胴体やボールを投げようとしている腕を激しく叩く。
- (e) 相手が身体のコントロールを失う行為をしようとする（例：ジャンプ中の相手の足/脚をつかむ。ただし、8：5a を参照）。
- (f) 高速でジャンプして、あるいは走って相手にぶつかる。



# ■ 試合中（8の4解説）

- 今大会では、トレーニング不足によりケガが発生しやすい状況となることが予想されます

⇒ケガを未然に防げるよう、危険なプレーに対しては適切な段階罰の適用をお願いします

- 前頁に記載の事象が発生した場合は、警告ではなく、躊躇なく「即座に2分間退場」を判定してください

⇒「**高速**」「**頭部や喉、首**」「**ジャンプ中の相手に対する接触**」などは、身体を守ることができない状況になり、危険度が大きく増しますので、注意して観察してください



# ■ 試合後

- 試合結果に間違いがないかを確認し、公式記録用紙にサインする



# ■最後に・・・

- 今大会はコロナ禍の中、努力の集大成を披露する場になります

**⇒多くの方々の想いが重なって、この大会が開催されるということを忘れないでください**

- ひとつひとつのプレーの評価を「丁寧に」やり遂げましょう！
- 試合前や試合中に体調不良等が発生した場合は、必ず申し出てください。決して無理はせず、体調第一でこの大会を成功させましょう！
- わからないことがあれば、関西学連・審判部常任学生委員まで気軽にお問い合わせください



# ■最後に・・・

・さらに深く勉強したい方へ...

⇒日本ハンドボール協会HP内、

<http://www.handball.or.jp/rule/index.html>

● 2021年度競技規則

● レフェリーハンドブック2021-2022

をご参照ください

・ 関西学連では、「レフェリー活動」に興味のある学生の皆さんを募集しています！

⇒ 関西学連・審判部常任学生委員まで気軽にお問い合わせください！